

2018年度 米国雇用主からみた健康保険に関する調査結果

~2018 Willis Towers Watson Best Practices in Health Care Employer Survey結果より~

エグゼクティブサマリー

- ❑ 米国ウイリス・タワーズワトソンでは従業員に対して健康保険を提供している雇用主に対し、意識調査を実施（本年度で23回目）。
- ❑ 調査対象企業
 - a) 米国内企業687社より回答。総従業員数は11.4百万人。
 - b) 調査結果は、1,000人以上の従業員を有する企業554社を反映。
 - c) 以下内容に関する質問を主に行った。
 - ①従業員の福利厚生への経験 ②ヘルスケアサービス提供状況 ③処方箋管理状況
 - ④統合的福利厚生の提供状況 ⑤健康や安全の見える化
- ❑ 雇用主が最も意識する項目として以下3点が挙げられた。
 - 1) **85%**の雇用主が『がん、糖尿病、妊娠・不妊、心の病、筋骨格疾患のような高額医療につながる状況を改善しなければならない』と回答。
 - 2) **82%**の雇用主が『従業員の健康・安全において改善を行う必要がある』と回答。
 - 3) **72%**の雇用主が『労働環境、風土や文化、テクノロジーの改善を行う必要がある』と回答。
- ❑ その他の重要事項として以下内容が挙げられた。
 - 1) **コスト上昇**
：ヘルスケア関連コストは向こう2年間で微増すると予想。プラン内容変更後の予想上昇率は**5%以下**であると見込んでいる。HSAのような貯蓄口座付与型医療保険プランへの移行が頭打ちになっていることを踏まえると、コスト抑制力は遜減する見込。
 - 2) **継続的な健康保険の提供**
：今後10年間においても、従業員に対して健康保険は提供していく見込。
 - 3) **従業員ニーズへの対応**
：今後三年間、従業員ニーズを反映し、重病疾患や慢性疾患への対応に注力。健康保険プラン内容もこれに従う。
 - 4) **処方箋薬剤コストへの対応**
：処方箋薬剤の管理を徹底。当該プランの内容を見直す。
 - 5) **従業員の健康や安全への対応**
：従業員の身体的、精神的、経済的な環境の改善に注力する。当該課題は、これまでも懸案として挙げられていたが、過去に例を見ないほどに注目されているように見受けられる。
 - 6) **ヘルステクノロジーへの対応**
：従業員が持つ各端末デバイスに対してヘルスケア関連のソリューションを提供していく。また、健康保険登録プロセスについても、（Webやアプリのような）テクノロジーで完結するよう改善していく。
 - 7) **健康増進運動の見える化**
：健康増進運動の見える化（数値化）を進めていく。現在では、48%の雇用主がそのような手段を持っていると回答。

レポートの詳細につきまして[こちらのページ（英語）](#)をご覧ください。

出典：2018 Willis Towers Watson Best Practices in Health Care Employer Survey, October 9th 2018

【注】本情報は主題内容に関する一般的な情報を提供することを目的としており、法律上、会計上、及び税務上のアドバイスを目的としたものではありません。法律上、税務上、及び会計上の義務・条件に関する事項につきましては専門家にご相談下さい。